

冠句

今井 三日月
柴田 遊児
西村 吟雪
選

特選 響き合う 海砂光る夏の声

東近江市 村上 定

(評) 敢えてこの句の海砂という表現に注目したい。静かな渚や汀とも、海水浴で賑わう浜辺など豊かな海を称えるでなく海砂という少し荒く表現していて少し時事っぽく、北海の果ての災禍への祈りも入っているかと思ひ、今年はこの秀句とした。

特選 今度こそ 世界遺産へ華の城

蒲生郡竜王町 松瀬 文恵

(評) 彦根のシンボル、金亀の城。典型的な平山城背後にびわ湖を抱き、外堀の優雅さに日本の美として、世界に知らせたい。前回は選に外れ、次回に期待します。これ市民の願い。

特選 猫被り 「嫁」を演じて幾年ぞ

犬上郡甲良町 上野 初子

(評) 母親が生きた昭和の時代の話か、うまく世間を泳ぐ人の中には、ほんの少しこの手を使う人が居るかも知れません。

入選 響き合う 手話の手と手が差す空と

錦町 中島 郁代

(評) 心と心が通い合う、一枚の絵画を見る様で素晴らしい。福祉の世の中、和と輪の拡がり、手話の世界に引き込まれる様です。目と目で語り笑顔に拍手。

入選 今度こそ 夢の舞台へまっしぐら

犬上郡豊郷町 西山 節子

(評) 自分自身が苦境を乗り越える時や、今ひとつやる気のない周りの人に励ましを入れる時、どこ迄効果があるか。

入選 猫被り 「アイドル」も古い令和生く

東近江市 片岡 弘

(評) 齢重ねどアイドルはアイドル。互いに年相応の若作り。寂しさを隠し切れない。でも日々生きている。夢の彼の日に帰りたい。

入選 響き合う 平和の祈り海越えて

甲賀市 大原 ふさ子

(評) 現世の時勢、世界の国々の構想、考え方の相違により、種々の争いに立ち向かう中、見守る遠近各国の誰もが願う抑止安隠、その素直な心情が伝わってくる。

入選 今度こそ 過去に決別今日新た

芹川町 杉浦 綾香

(評) 先般まで何か釈然としない並行線を辿って来たが、心を開き清々しい晴ればれとした春風のような爽やかな気持ちで接し、円満解決に向かう共感を呼ぶ句。

佳作 響き合う 窓明け放つ春の使者

田附町 大谷 みつ子

佳作 響き合う 君の気持に寄り添いて

東沼波町 木原 正

佳作 今度こそ 耐えて継るに拉致家族

彦富町 池田 光雄

佳作 響き合う 三代揃い笑い声

金沢町 荒見 あや子

佳作 猫被り 笑える明日に期待する

葛籠町 中居 春代

佳作 響き合う 老いの閃き身も燃ゆる

宇尾町 金森 光男

佳作 響き合う 気合波割る寒稽古

長曾根南町 高 恵三郎

佳作 猫被り 本性暴く週刊誌

地藏町 佐古 徳子

佳作 今度こそ 殻を破って広い空

清崎町 柳本 和子

佳作 今度こそ 花に実が成る種を置く

鳥居本町 寺村 美恵

佳作 響き合う 今の私と過去未来

稲部町 辻 昭子

佳作 今度こそ どん底耐えた男意気

新海町 木村 美波

佳作 今度こそ 昔話しになる日待つ

大藪町 大塚 しのぶ

佳作 響き合う 水琴窟はいい音色

肥田町 青木 徳男

佳作 猫被り いざ底力母強し

蒲生郡竜王町 松瀬 博美

佳作 猫被り 知恵と知識と根性と

甲田町 平田 政江

佳作 響き合う 笑顔に愛を通わせて

鳥居本町 滝口 寿美夫

佳作 今度こそ 涙に誓う優勝旗

愛知郡愛荘町 青木 郁子

佳作 響き合う 皺と白髪 of 熟女母

長浜市 勝木 岩松

佳作 今度こそ ひとりになって羽根たたむ

清崎町 辻 哲雄

佳作 猫被り 似非ゆかし人早露見

大藪町 清水 慶昭

佳作 響き合う 馬蹄と新人騎手の鞭

八坂町 松本 羊央

佳作 今度こそ 柵ぬけて蝶になる

田附町 佐々木 トミ

佳作 猫被り 終りなき旅ドラマ尚

金沢町 荒見 金一

《総評》

本年も冠句愛好者の皆さまのたゆまぬ意欲と情熱に敬意を表しますと共に深く謝意申し上げ、併せ選をさせていただく重責を痛感いたしましたお次第でございます。今回もご投吟くださった全ての句を改めて名を伏せ順不同で作成し直された小冊子をもとに、柴田、西村両先生と不詳私の三名で精魂こめて精読吟味審査させていただきました。経験豊富な老練技法から新鮮味溢れた素直な句まで優れたものが多く、選定に限りがある中、甲乙つけがたい秀吟もやむを得ず選外とせねばならぬ実情に苦慮いたしました。結果以上三十二声に落ち着いた次第です。

よくご存じの方もいらつしやると思いますが、冠句は季語、季節等にこだわる事なく自由吟ではありますが、まず冠題の五文字を角度を変えてよく吟味し充分かみしめてから自由自在に解釈し、それにふさわしい事柄や場面を新しく興して心の中の気持ちや風景の楽しさ、また身の周りで見つけたおもしろいことがらを、ひとつの絵や詩のように言いあらわし、胸に残るような感動表現で「中七、下五の十二文字」にまとめる短い楽しい心の詩です。只冠題にすぐ接続しない、標語調にならないようにこころがけて、創作心は高くやさしく…。どうぞ句友の皆さん、選外の方も紙ひとえ、めげる事なく、次回もごぞつてご応募くださることをお願い申し上げます。

今井 三日月

選者吟

響き合う 祈りにも似て木々の曲

柴田遊児

今度こそ 手放す野良衣 鍬もまた

西村吟雪

猫被り 誇らぬ徳が世に光る

今井三日月

